

か げ
鹿毛第3遺跡

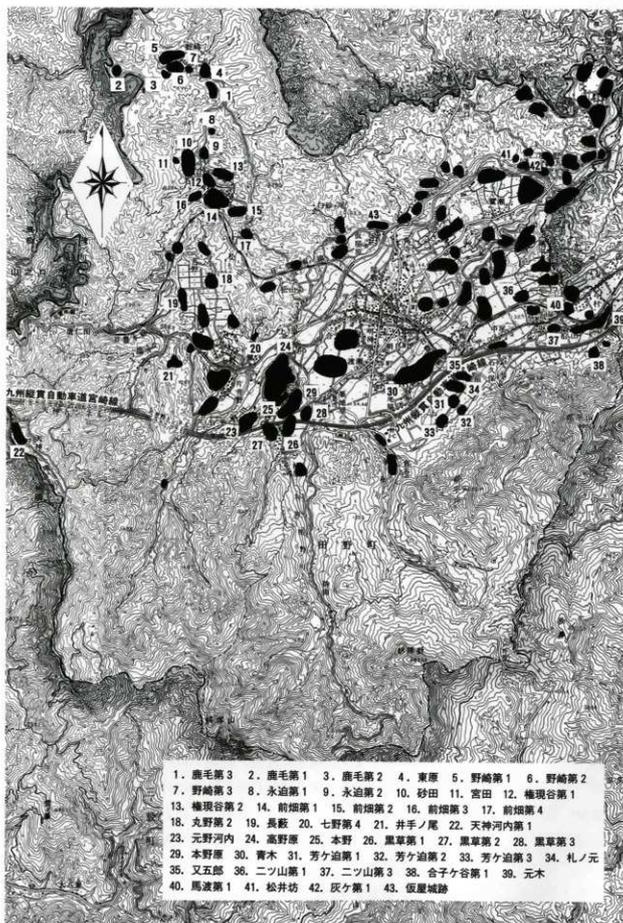


鹿毛第3遺跡全景（調査着手前）

鹿毛第3遺跡の調査

田野町は宮崎市の西方約20kmの地点を中心とする田野盆地と、それを取り囲む鰐塚山をはじめとする山々からなり、1市（宮崎市）5町（清武町・高岡町・山之口町・三股町・北郷町）と接しています。主な産業は大根や煙草などを主体とする農業ですが、近年は高速道路、国道、県道の整備によって交通の要衝の地となり、工業団地の整備と企業の誘致や専門学校誘致、宅地開発なども進み、徐々にではありますが着実に変化・発展する町となりました。しかし、その一方で農業基盤整備や上記の各種開発に伴う遺跡の保存協議の円滑化が大きな課題となり、町教育委員会でも調整や調査体制の充実を図ってきましたが、これらにかかる遺跡の大部分は記録保存の対象となり消滅しました。平成9年3月現在で既に約27遺跡が発掘調査されていません。

平成8年度は、県営農地保全整備事業元野地区に伴う元野河内遺跡と、ここで概要を報告します県営畑地帯総合整備事業七野・八重地区に伴う鹿毛第3遺跡の発掘調査を実施しました。



町内主要遺跡分布図

鹿毛第3遺跡は田野町の中心部から北北西の高岡町と接する野崎地区に所在します。野崎地区にはこのほかに鹿毛第1・第2遺跡、野崎第1～第3遺跡、東原遺跡などがありますが、いずれも未調査で平成元年度に実施しました遺跡詳細分布調査によって発見されたものです。鹿毛第1遺跡で古代、野崎第1・第2遺跡で弥生時代、東原遺跡で縄文時代の土器の破片が地表面より採取されています。また野崎地区のすぐ南方には八重地区の遺跡群があり、総数10遺跡のうち7遺跡（永迫第2、砂田、権現谷第1・第2、前畑第1・第2、宮田遺跡）については昭和63年度から実施している県営農地保全整備事業八重地区に伴い、発掘調査による記録保存の措置が取られました。この調査により、全遺跡から縄文時代の遺構や遺物が出土したほか、権現谷第1では弥生時代の竪穴住居跡が発見されました。縄文時代は大半が早期のもので、その豊富な資料は県内外の研究者からも注目を集めています。

鹿毛第3遺跡は県営畑地帯総合整備事業七野・八重地区の事前協議の段階で、宮崎県文化課が実施した試掘調査により、縄文時代早期の遺跡であることが確認されていました。平成8年4月以降、町教育委員会、県文化課と原因者である宮崎県中部農林振興局との間で遺跡の保存について再三にわたり協議しましたが、設計施工上現状保存が不可能な部分についてのみ発掘調査を実施することとなり、平成8年10月7日付けで同振興局と委託契約を締結し国庫の補助を得て、同年10月17日から現地の作業に着手しました。調査面積15,000㎡を対象として、県文化課ならびに同埋蔵文化財センターの指導協力を得ながら同9年1月20日に完了しました。

調査の結果、縄文時代早期の集石遺構が12基、土坑が数基と土器や石器が多量に出土し、時代不明の長方形土坑も1基確認しました。



発掘作業風景

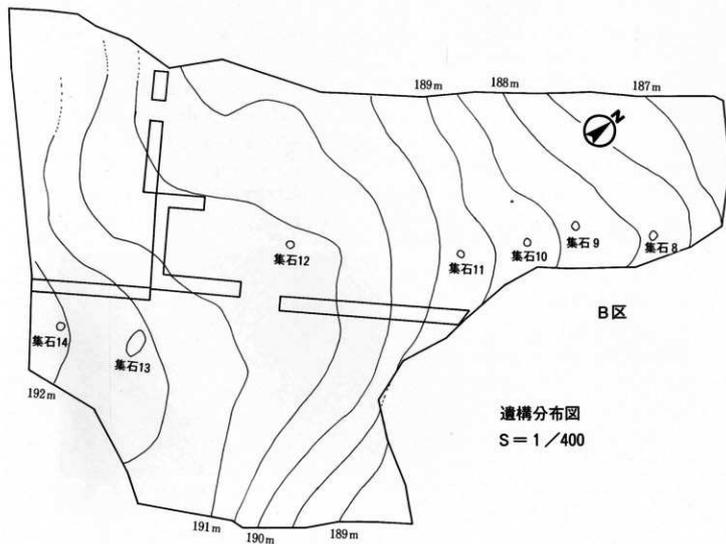
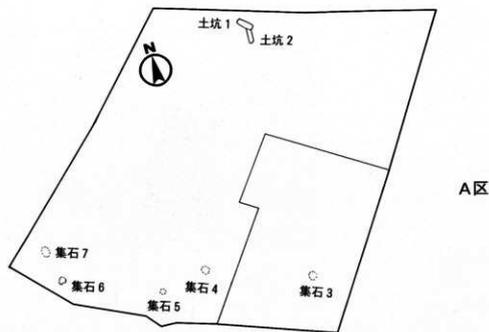
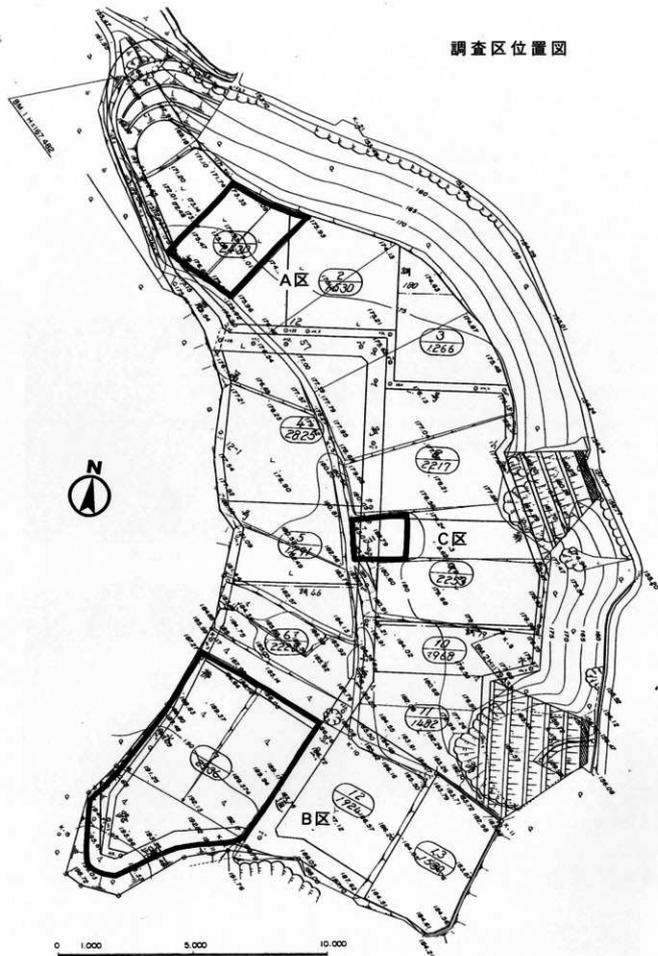


遺構検出状況（A区）



縄文時代のタイムスケール

調査区位置図



出土した遺構と遺物

調査は遺跡の北側をA区、南側をB区、中央をC区として実施しました。各区における土層の堆積は、上層から耕作土、赤ホヤ腐食土、赤ホヤ火山灰、褐色土1、褐色土2が基本となり、遺構の検出作業は赤ホヤ火山灰層上面及び褐色土1と褐色土層2中においておこない、A区の赤ホヤ火山灰層上面において土坑を2基、A区の褐色土層1中において集石遺構を5基、B区の褐色土層1と褐色土層2中において集石遺構を7基、土坑を1基確認しました。



土坑1 検出状況

A区の土坑1は約1.69m×0.60mの長方形をしたもので深さが0.66mあり、土器などの遺物は出土しませんでした。その中にやや黒っぽい火山灰が約12cm敷きつめられた状態で検出されました。現在その用途や埋没した時期を推定するために、火山灰の分析を株式会社古環境研究所に依頼しているところです。

集石遺構はやや浅めの掘りこみをもつものと、もたないものの2つのパターンが見られました。また、これらの石は熱を受けたためか大半が赤く変色していました。

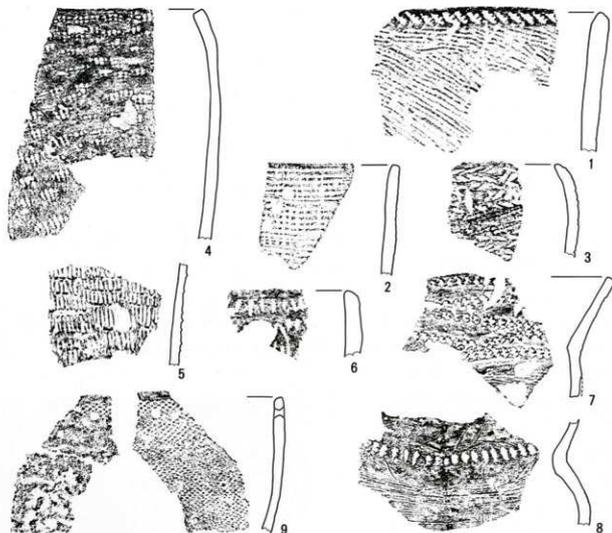
遺物は主に褐色土層1と褐色土層2を掘り下げた際に出土しました。土器は(1～4・7・8)などの主に貝殻で文様をつけるものや櫛状あるいはヘラ状の工具で文様をつけるもの(5・6)のほか、押型文(9)などがあり、また県内では出土例の少ない角筒土器も細片ですが1点出土しました。いずれも文様構成や器形に様々なバリエーションが見られます。石器は石鏃(10～21)石斧(22)や磨石、石皿などのほか石器を作る時にできるチップ(破片)も多数出土しました。磨石の中には尾鈴山麓産の石を使用したものが数点あり、さらに石鏃やチップには黒曜石という宮崎県内では産出しない石材がみられました。これらことから、当時に人や物の盛んな移動や交流がおこなっていたことがわかります。

調査の結果、鹿毛第3遺跡は主に縄文時代の早期を中心に営まれた遺跡であることが明らかになりました。田野町内には特に縄文時代早期の遺跡が多数分布しており、当時の生活条件を十分に満たした地域であったことを伺い知ることができます。

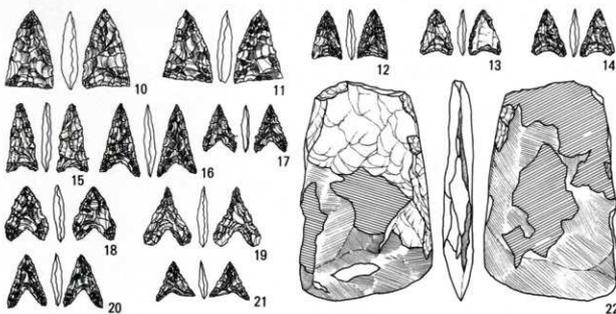
(田野町教育委員会 森田 浩史)



A区集石3 検出状況



縄文時代早期の土器 (S=1/3)



縄文時代早期の石器 (S=2/3)

おわりに

鹿毛第3遺跡の調査にあたっては、人材不足が危惧される昨今にもかかわらず多数の町民の皆様に参加を得ることができ、地元地権者ならびに事業関係者の皆様には調査に対するご理解ご協力を賜りました。また、宮崎県文化課の永友良典氏、宮崎県埋蔵文化財センターの北郷泰道氏の派遣を得て、現地調査を円滑に完了することができました。ここに記して感謝申し上げます。

調査事務所のご案内

教育委員会では、主に埋蔵文化財の調査に伴う資料の収集・整理・保管の拠点として、平成7年度に「田野町文化財調査事務所」を設置しました。諸作業をおこなうスペースが3部屋と出土資料の収蔵施設、諸道具の保管施設を確保しています。近年、当町では複数箇所で大規模な発掘調査を実施しているため、報告書作成作業を待つ出土遺物や実測図などの資料は膨大な量となっていました。現在、担当職員2名と補助員4名で悪戦苦闘しているところです。

収蔵施設ではこれらの未報告資料と既に調査報告書に掲載された資料を保管しています。見学されたい方はぜひお申出ください。また、日程等を事前にご連絡いただくと幸いです。調査事務所へのアクセスは下記のとおりです。お気軽にお越しください。

- ・JR田野駅（徒歩5分）
- ・田野町役場及びバス停（徒歩2分）
- ・宮崎市内（車で約30分）
- ・宮崎自動車道田野IC（車で約5分）

